

花と緑の銀行だより

208号 2018.7



県民公園 頼成の森 花しょうぶ園 H30.6.22

目次

- ・花と緑の提言 滑川市の花と緑のまちづくりについて（滑川支店） 2
- ・活動事例 南砺支店の緑化推進活動について（南砺支店） 3
- ・技術講座 富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン ベニカノコソウ（職藝学院 渡邊美保子） 4
- ・緑づくりコーナー 庭木に利用する樹種の特徴と管理 ケムリノキ（樹木医 西村正史） 5
- ・報告・紹介 とやまの花壇～高波花街道～ 6
- ・この人あり 朝日支店の現状と今後の課題（朝日支店泊二区地方銀行 中山 昇） 7
- ・報告・お知らせコーナー 7月～9月の主なイベントなど 7



滑川市の花と緑のまちづくりについて

花と緑の銀行 滑川支店長

滑川市長 上田 昌孝

滑川市は、遠く富山湾の向こうに能登半島を眺め、振り返ると3,000m級の山々が折り重なる立山連峰を仰ぎ見る自然豊かなまちです。県の中央部から東北寄りに位置し、多産業の調和がとれた人口約3万3千人のまちであり、昭和29年3月に市制を施行し、今年で65周年を迎えます。

特に家庭配置薬業が古くから栄え、“くすりのまちなめりかわ”は全国に知られています。市内を走る幹線道路の植樹帯には、薬草のシランやタイムなどを植えて当時の名残を遺しております。

若葉が芽吹き始める季節になると、有磯海一帯は「ホタルイカ」のシーズンを迎えます。富山湾の深海約1,000mからやって来る龍宮の使者「ホタルイカ」は、海面で神秘的な青い光を放ち、幻想的な美しい風景に包まれます。



写真1 滑川駅からの立山連峰

平成の名水百選の「行田の沢清水」で知られる行田公園は、市民の憩いの場として親しまれており、初夏を迎える頃には花菖蒲が美しさを競うように咲き誇ります。

そのほか、滑川市には海拔約300mから富山平野を一望できる東福寺野自然公園があります。パークゴルフ公認コース27ホールや、みんなが楽しめる「ふわふわドーム」、ロマンチックな夜景が望める「SLハウス」など自然の中で思いっきり楽しんでいただける、いろいろな施設をご用意して皆様のお越しをお待ちしています。



写真2 行田公園の花菖蒲

昨年5月に、第68回全国植樹祭に先立ち、滑川市植樹祭を開催しました。会場となった滑川運動公園堀江自然ふれあい広場には、約1,300㎡の敷地にウメ、コナラなどの苗木約250本を、会場に集まった市民の皆様の手で植えていただきました。同時にパークゴルフ場9ホールも新設し、東福寺野自然公園のコースと併せて、より充実したラウンドが楽しめるようになりました。

毎年5月には、市道駅南環状線や市道滑川駅前線中央分離帯(通称「ほたるいかプロムナード」)が、地元町内会の皆様のご協力により、色鮮やかなフラワーロードになり、訪れる人を温かく迎え、目を楽しませてくれます。



写真3 滑川市植樹祭(上)、ほたるいかプロムナード(下)

また、今後百年に21,000本の桜を植栽する「21世紀桜のまち推進事業」を進めております。滑川市が春を迎える喜びをたくさん感じられるまちになるように、桜の植栽・育成を地域の皆様と行政が一体となって事業を進めております。

これからの花と緑のまちづくりについて、一貫して「自ら苗を作る・植える・育てる」自発的な緑化活動を進めていきたいと考えております。これからも、様々なご意見をいただきながら、花と緑の推進に努めてまいりますので、より一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

末筆になりましたが、公益財団法人花と緑の銀行の今後ますますの発展をご祈念し、挨拶とさせていただきます。

南砺支店の緑化推進活動について

花と緑の銀行 南 砺 支 店

南砺市は、砺波平野から五箇山地方まで起伏の激しい地形が続いており、山間部の豊かな緑と散居村の風景を楽しむことができます。

また、世界文化遺産「五箇山合掌造り集落」をはじめ古い町並みが美しい「越中の小京都・城端」、そして今年日本遺産に認定された「木彫刻のまち井波」があり、香り高い歴史と文化を感じることができます。

その中で市では、「自然に優しい住みよいまちづくり」を目標に緑の保全と緑化の推進に取り組んでいます。この取り組みには頭取・グリーンキーパーの協力が不可欠です。現在、南砺支店は、総勢205名で構成されており各地域にあった活動を行っています。

さらに、平成23年度より「花いっぱいのもちづくり事業」を開始し、市内各地の観光ポイントの、より一層の緑化に努めています。

まず、五箇山の玄関口である城端駅をはじめ福光駅、福野駅の各駅前でのハンギングバスケット、プランター、花の塔を設置しています。花の植え込み、生育管理は、頭取・グリーンキーパーと地域住民の皆さんとで行っています。また、この事業で使用する花苗は市内の生産者のものを使用し生産者との相乗効果も上げています。



写真1 「花いっぱいのもちづくり事業」による各駅前のおもてなし

そして、花と緑の銀行事業であるおもてなしフラワー事業を活用し、菅沼合掌集落（上平）、八日町通り（井波）の花飾り事業を行っています。前年度より相倉合掌集落（平）でもこの事業をはじめ、今年より集落内に花飾りを開始します。どの地域も景観を配慮した花飾りが必要なため、景観と調和のとれた花台やプランターの設置、そして花苗の選択もとても重要となります。

各地域の頭取・グリーンキーパーの協力もあり、毎年美しい花飾りでのおもてなしをすることができます。

その他に毎年「南砺花と緑のフェスティバル」を開催し、地域振興と新たな花の文化の創造や定着に務めています。このイベントは南砺支店の皆さんが実行委員として参加しています。

イベントでは、コンテナガーデンコンテストやミニ花壇コンクールといった市民の皆さんも参加する催しや、寄せ植え華道やハンギングバスケット協会提案の新しい試みを取り入れた花飾りの提供等を行っています。近年では市外、県外からの来場者も増え、花を通じた交流も増えています。

そして南砺市内には、たくさんの花壇があり、地域の緑化推進のリーダーである頭取・グリーンキーパーの方々と地元の皆さんで土壌整備、花苗植込み、管理をしていただき、毎年夏には、南砺市花壇コンクールを開催しています。切磋琢磨し、よりよい花壇づくりを目標に、地域住民のみなさんにつながりの輪が広がっています。

これらの事業において花と緑の頭取・グリーンキーパーの皆さんを主体に、自然環境や生活環境の保全、街の環境向上に市民協働であたり、花や緑が溢れ、もてなしの心に満ちた花のまちづくりでひとつになる南砺市が定着してきました。

市民の目線で「花で何かできないか」などの声が多くなり、積極的に動き出してくれる市民が増えることにより、住みよいまちづくりへとつながっているように思います。

市民の目線で「花で何かできないか」などの声が多くなり、積極的に動き出してくれる市民が増えることにより、住みよいまちづくりへとつながっているように思います。

今後は、さらに緑化を進め、そして継続していただけるように市民の皆様と共に推進していきたいと考えております。



写真2 合掌集落内の花飾り

富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン

30 ベニカノコソウ

職藝学院

教授 渡 邊 美保子

ベニカノコソウは、ヨーロッパ原産の寒さに強い宿根草です。5月中旬から6月初旬に深みのある紅色の小花をたくさん咲かせます。草丈は80cm位になります。冬を越すたびに花茎の数が増えてくるので一株だけでも存在感があります。また、葉は規則正しく交互に向かい合い、つやのある抹茶色をしています。葉を眺めているだけでもさわやかな気持ちになります。

ベニカノコソウは、花茎の先端に小さい蕾をたくさん付けます。その後、打ち上げ花火のように放射状に花を咲かせてゆきます（写真1）。向かいあう葉は小花の集団を包み込むように付いています。その下の段の向かいあう葉の付け根からは、一対の花茎が伸びてきます。その先には、また蕾の集団が付いていて次の出番を待っています。しばらくすると花茎の先端の小花の集団は階段状に伸びてゆきます。球状だった小花の集団は、いつのまにか円錐状に花を咲かせるようになります。

ベニカノコソウの花びらの形も不思議です。花は、まるで人のような姿をしています。細長い頭から両手が伸びていて、細い両足が2本ぶら下がっているように見えます。花びらはくっついていて、その裏に距（きょ）と呼ばれる筒状の細長

い角のようなものがあります。表側のひょうきんな花の姿からは想像もつかない裏側の花の姿に驚きます。

ベニカノコソウは、花が終わった後も楽しめます。まだ先端に少しの花を申し訳なさそうに咲かせている頃、下の段ではすでに種ができています。花が終わりしばらくすると青い種の先端からふわふわした綿菓子のようなものが盛り上がってきます。すると、その翌日にはタンポポの綿毛のようなものがぱっと開きます。ベニカノコソウの花茎は、まるで雲の階段のように生まれ変わります。

ベニカノコソウは、東南側の光と水はけの良い場所を好みます。西側に少し草丈の高くなるものを植えると西日を避けることができます。植える場所にほんのわずかな気づかいをすれば、寿命の長い宿根草です。組み合わせは、抹茶色の花茎と葉、紅色の花が美しいので一株の姿を浮かび上がらせてくれる植物を選ぶと良いでしょう（写真2）。たとえば、黄緑色の葉を持つシモツケの品種や銅葉のブロンズフェネルなどを植えると、ベニカノコソウの花を引き立ててくれます。



写真1 咲き始めのベニカノコソウの小花。
咲き進みながら、次のつぼみが膨らむ。



写真2 植栽して6年目のベニカノコソウの株。
後ろは、シモツケの品種ライムマウンド。

庭木に利用する樹種の特徴と管理

～ ケムリノキ ～

日本樹木医学会富山県支部

樹木医 西村 正 史

最近、緑日でおなじみの綿菓子によく似たふわふわした固まりをたくさんつけた花木を、県内の個人宅の庭でよく見かけるようになりました。これはケムリノキといい、外国から入ってきた花木です。

1 特徴

ケムリノキは、ヨーロッパ南部、ヒマラヤ、中国を原産地とするウルシ科ハグマノキ属の落葉低木で、雌雄異株です（写真 1）。スモークツリー、ハグマノキ、カスミノキとも呼ばれています。高さは3～5mほどになり、よく枝分かれます。

花は目立ちませんが、5～6月に咲きます。雌株では花が咲いた後に花柄が糸状に伸びて（写真 2）、綿菓子あるいは煙のような独特の形になります（写真 3）。しかし、雄株では花柄があまり伸びないので、写真 2、3 のようにはなりません。

暑さや寒さに強い花木です。しかし、根は比較的浅く、また枝が細く伸びるため、風の影響で樹木が倒れたり枝が折れたりすることがあります。そのため、強風が直接当たらないような場所に植栽します。

2 管理

日当たりと水はけのよいところに植えつけます。暑さに強いので、地植えの場合は植えつけ直後を除いて、よほどの日照りが続かない限り、水やりを行う必要はほとんどありません。



写真1 雌株のケムリノキ（2018.6.18撮影）



写真2 花後の花柄の伸び（2013.6.18撮影）



写真3 綿菓子あるいは煙のような独特の形になった枝先の花序（2013.6.18撮影）

とやまの花壇 ～高波花街道～

富山県内には、地域の方々が丹精込めて管理育成されている素晴らしい花壇があふれています。癒しとインスタ映えのスポットです。来訪をお待ちしています。

1 花壇の特色

高波花街道は、日本の原風景の一つである、砺波地方の散居村に位置しています。花壇は地区のほぼ中心にあり、山王川と並行し、のどかな田園風景の中、通勤、通学、そして散歩道として地域の皆さんに親しまれています。

緑豊かな田園風景と共に、街道に寄り添う山王川の流れ、散居の情景につつまれた、富山を代表する美しい安らぎの花の道です。

<主な表彰歴>

H11～27 県花のまちづくりコンクール（花の道）連続入賞
H24最優秀賞、H27特別賞など

H15「高波花と緑の推進協議会」として、全国花のまちづくりコンクール 大賞（農林水産大臣賞）

H26「高波花と緑の推進協議会」として、緑化推進運動功労者内閣総理大臣賞

H28～ 県花のまちづくり推進モデル花壇

2 花壇の活動概要

（1）取組み

運動公園の一部として道路が拡張されたことを契機に、平成7年より高波花と緑の推進協議会を組織し、全長500mの花の道づくりに取り組みました。

同会は、自治振興会、老人クラブ、女性部、児童クラブ、グリーンキーパーらで構成され（会員数は約1300人）、子供からお年寄りまで世代を超えた地域の和により、“花の道の育成、管理”に取り組んでいます。

（2）花壇の管理とくふう

単調になりがちなボーダー花壇に様々な変化を育み、道行く人にホッとした和みと癒しを与えてくれる花の道となっています。

- ①昔からなじみの深い花苗（百日草、ナデシコ、おしよらい花（ミソハギ）など）をふんだんに使い、色彩、高低に配慮した植栽
- ②13個の柵や30余りの樽プランター、ベンチを配置
- ③一年草や宿根草により花壇ごとに工夫



チューリップフェアが終わる5月の連休明けに、春先を彩ったパンジー等を撤去し、夏花壇の準備に入ります。牛ふん堆肥による土づくりに始まり、自家育成のプラグ苗や市から配布のポット苗、播種苗などを会の皆さん総動員で定植します。

普段の管理はグリーンキーパーが主体となり、水やりは会員らで3人1組のローテーションを組み、軽トラのタンク水で実施しています。



写真1 恒例の定植作業

～グリーンキーパーの指導の下、会員総出で行います。

3 おもい

世代や団体、集落を超えた20年以上の活動により、地域内の交流の輪が深まり、花を通した笑顔あふれるふるさととなっています。地区の集会場や通学バスの停留所などふとしたところに、皆さんが携わった癒しの花がたたずんでいるのに気づくと、活動をしてきてよかったなあと思います。

この後も、無理なく楽しんで、魅力ある活動が継続し、花を通して地域づくり、人づくり、次世代の子供たちに慈しむ心を育んでもらいたい、心とむ環境づくりを目標に活動を進めたいと思います。

（以上、高波地方銀行頭取 宮野裕子さんから、お話を聞きました。）

○花壇の概況

- ・規模 延長500mの花の道
- ・見頃 7月～9月
- ・管理者 高波花と緑の推進協議会
- ・住所 砺波市高波（山王川沿い）

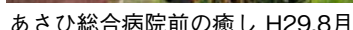


写真2 色彩、高低に工夫を凝らした山王川沿いの情景（左：9月 右：7月）



泊二区地方銀行 頭取 中山 昇

今後も体力気力が続く限り、花と緑の豊かな快適で健全な社会づくりを目指してこの活動が続けたいと思います。



 報告コナナ

頼成の森 花しょうぶ園 H30.6.13

左段上から10、11行の数値：（誤）約3500株、約7500株 → （正）約35,000株、約75,000株

 お知らせコーナー（7月～9月の主なイベント）

 富山県中央植物園

○夏休みこども企画

「森のクラフト」

7月24日(火)～8月29日(水)

- ・どんぐり、マツボックリや小枝を材料に自由な工作が楽しめます。
- ・小中学生と幼児の体験は無料です(保護者の方は入園料必要)。

「オオオニバスに乗ってみよう」

8月17日(金)～19日(日) 各日 9:30～11:30、13:30～15:00

○夜間開園「熱帯植物探検」

7月27日(金)、28日(土) 19:00～21:30 (入園は21:00まで)

○私の植物写真展

7月27日(金)～8月22日(水)

○友の会植物画部会「ボタニカル・アート展」

9月7日(金)～26日(水)

○サボテン多肉植物展

9月28日(金)～30日(日)

(詳細はHPをご覧ください。お問い合わせは富山県中央植物園へ。参加には入園料が必要です。)

 県民公園 頼成の森

○木工手づくり教室

8月5日(日) 9:30～12:00

定員:25名 参加費:500円

○竹細工教室

8月26日(日) 9:30～12:00

定員:20名 参加費:300円

○どんぐり工作教室

9月23日(日) 9:30～12:00

定員:30名 参加費:200円

(詳細はHPをご覧ください。申し込み・お問い合わせは県民公園 頼成の森へ。)



滑川市行田公園 花しょうぶまつり H30.6.15



編集発行 公益財団法人 花と緑の銀行

〒939-2713 富山市婦中町上轡田42
TEL 076-466-2425
FAX 076-465-5923
<http://www.bgtym.org/fgbank/>

富山県中央植物園

〒939-2713 富山市婦中町上轡田42
TEL 076-466-4187
FAX 076-465-5923
<http://www.bgtym.org/>

花と緑の銀行だより 208号

発行日 平成30年7月
再生紙を使用しています。

県民公園頼成の森

〒939-1431 砺波市頼成156
TEL 0763-37-1540
FAX 0763-37-1450
<http://www.bgtym.org/ranjyounomori/>